

## 祝20周年！夏の講演会・講習会を開催しました

今年度は近畿教育オーディオロジー設立20周年の年にあたり、夏の講演会・講習会も20回を数えることになりました。1日目はホテルアウリーナ大阪にて夏の講演会と20周年記念レセプション、2日目は大阪府立生野聴覚支援学校で夏の講習会を開催しました。今年度も多くの先生方にご参加頂き、参加者数は219名となりました。また、会員数は267名となりました。例年のない酷暑の中でしたが、参加者の皆さんとても熱心に研修されていました。設立から今日までを振り返り、教育オーディオロジーの歴史に触れた2日間になったのではないのでしょうか。皆さんからお寄せいただいたアンケートをもとに、今年度の講演会・講習会の様子をご紹介します。

## 参加者の感想

講演会 8月21日午前

「聴覚補償・情報保障をめぐる社会の変化と教育オーディオロジーの役割」  
 (講師 筑波技術大学名誉教授・元学長 大沼 直紀先生)

- ・20年にふさわしい内容だった。この教育の今だけを切り取ったようにして語ることは時々どこかでききますが、なぜ今、この教育がこのように行われているか、学んで今にいかすことが大切だと感じます。
- ・これまでなら「聴覚口話法」や「日本手話」など1つの方法・生き方しか選べなかったのが、今はいくつかの方法・生き方を組み合わせ、聴覚障害者もその人らしさを出せるようになりつつあるのだと感じました。
- ・近畿教育オーディオロジーの立ち上げまで、そして今までの流れについて初めて知ることができました。その中で教育オーディオロジーの役割、期待・展望について研修を深めることができました。「当事者研究」の視点はすごく大切なことだと思います。
- ・近畿教育オーディオロジー研究協議会がどのような経緯で設立されたのか知ることができて良かった。0～2歳早期教育の制度についての働きかけも有りがたいと思った。今後医療なのか学校なのか注目していきたい。
- ・バリアフリー・コンフリクトのお話を聞いて、幅広く多角的な観点から考えていくことの大切さを感じました。聴覚補償と情報保障の両方で支援していくことが重要だと改めて考えさせられました。
- ・大沼先生のお話は聾教育に携わるものとして、定期的に聞くのが大切だと思いました。日々目の前のことに追われている中、原点に立ち返って聾教育を見つめ直す良い時間になりました。本当にありがとうございました。
- ・大沼先生の貴重なお話を伺えてよかったです。資料の多さ、中身の濃さに驚きでした。「バリアフリー・コンフリクト」や「情報保障」の考え方など、時代がかわっていくにつれ考え方も変わっていくのは当然のことだと思います。対応していく力をつけていきたいと思っています。



## パネルディスカッション「教育オーディオロジーの役割と展望」 8月21日午後

- パネラー
- 中瀬 浩一 先生 (同志社大学 准教授)
  - 大沼 直紀 先生 (日本教育オーディオロジー研究会 会長)
  - 三反田 多香子 先生 (近畿教育オーディオロジー研究協議会 会長)
  - 松川 雅一 先生 (大阪府立堺聴覚支援学校 教諭)
  - 足立 貢 先生 (大阪市立北中道小学校 教諭)

- 相手にあわせて「わかりやすく伝える力」をつける必要性、学校全体のこと、聴覚障害教育に対する深め、他の先生に説明を任せるのではなく自身でしっかり説明する力をつける大切さも感じました。
- 支援学校のことだけでなく、難聴学級のことや自分の担当の部以外のことについても、もっと知識を深めなければと考えさせられました。
- 先生方の熱い思いを感じ、あらためてこの教育の果たす役割の大きさを感じました。いろいろなことで滅入ってしまいましたが、元気をもらいました。明日から頑張ろう！と思えました。いつも来て良かったと思わせていただいております。



- 聴覚支援学校にいても難聴学級の現状などはなかなか知ることができないので今回のお話を聞くことができ大変参考になりました。また、同じ聴覚支援学校の中にも通級の話などはなかなかお聞きする時間がないので、おききできて良かったです。
- 中瀬先生のお話の中で、わかりやすく「伝える力」が専門性であるということをお聞きし、本当にその通りだと

思いました。聞こえにくいこと、またそれによる困りごと、支援・配慮について周りの人いかに分かりやすく伝えられるかがろう学校の教員の大きな役割だと感じました。

## 講習会（講座Ⅰ） 8月22日 午前の部

### 【聞こえの仕組みと聴力測定（午前、午後）】

- どんな風に聞こえているのかを実際に聞いてみながら基礎的なことを学べて良かったです。これからの子どもとの関わりに活かそうと思いました。

### 【人工内耳の基礎】

- 人工内耳そのものが日々進歩していて、子どもさんのつけている人工内耳の機能についていけないということが起こってしまうので、この講座は貴重だと思います

### 【補聴器の特性とオーディオグラム】

- とてもわかりやすい説明だったので良かったです。初めて聞く言葉もあったので勉強になりました。これからはオーディオグラムを見て今まで分からなかった所まで理解できるようにしたいです。ありがとうございました。



### 【聴覚障害にかかわる福祉制度】

- 手帳のこと、制度のこと、法のこと（根拠となる）改めてきくと知らないことも多くあり、とても勉強になりました。流れで行っていた事が頭の中で色々整理され、とても学びの多い時間となりました。ありがとうございました。



### 【地域支援】

- 日頃の教育活動の中で思っていたことが丁寧に整理され、さらに深みのある内容でした。寄り添うことの大切さを再確認しました。よかったです。

### 【学び直しの「子どもの発達心理」】

- 聴こえだけでなく見え方についてもわかりやすくお話してくださいました。発達をわかったうえで前もって保護者に伝えておくこと発達段階にあった課題をしていくこと、目的を明確にして取り組むことの大切さを改めて感じた。



### 【難聴学級での指導】

- 足立先生のお話が特に興味深かった。学習言語と一口に言っても、数が多く、どう手を付けたら良いかと迷いそうだと思ったが、子ども自身が自分で調べて自分の話しの中で間違っても良いから活用していく課題が大切と学びました。また、その方法は本人の性格も出て面白いと思いました。



## 講習会（講座Ⅱ） 8月22日 午後の部

### 【ことばのききとり評価】

- 具体的にわかりやすく教えていただきよかったです。検査で何を見るのか、指導につながる検査になっているのか、改めて考えていかなければならないと思いました。担任として結果を共有する時の話し方の参考にもなった。



### 【補聴器の仕組みと保守管理】

- 具体的な話でわかりやすかったです。補聴器の音を聞いたり手入れの道具をみたりしたことがよかったです。子どもといっしょにたしかめたいと思います。

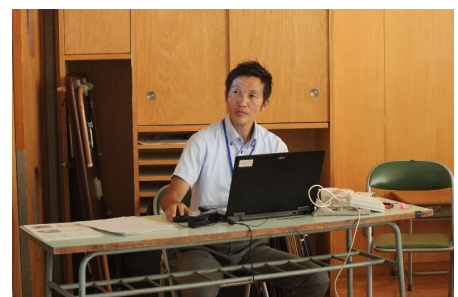
### 【FM補聴器（ロジャー）】

- 実際の機器を使って説明していただけたのでとてもよく分かりました。どんどん発達している機器ですが、児童が使いこなせる、またマイクなどの使い方を説明する力もいると感じました。



### 【はじめての補聴器フィッティング】

- 練習問題があったり実際にリニアとノンリニア補聴器の違いを体験したり、フィッティングの様子をみせてもらえてとても分かりやすく楽しかったです。



## 【人工内耳の応用・事例】

- 人工内耳機器の修理について各社のシステムについて学ぶことができてよかったです。新しい機器への期待が強いという気持ちは今のきこえに満足していないという背景があるというお話も印象に残りました。

## 【難聴学級での取り組み】

- 特別支援学校にいる自分にとっては、難聴学級に通う子どものききとりの大変さをそこまで意識していませんでした。人数が増えたり行動範囲が広がったりすると、その分聞こえにくさも増えてくると言うことを改めて感じました。

## ★ 運営について（開催時期、講座の時間、講座数、講座の内容など）

- 8月上旬～中旬でもいいのかなと思います。
- 1日目のエアコンがきいていて寒かったです。
- 会場(生野聴覚支援学校)は、毎年同じなので、分かりやすくありがたいです。
- 10年近く参加していると、2日目の講座は新鮮さに欠けます。ただ基本的な内容を繰り返すのが主なねらいなら仕方ありませんね。
- 若い先生たちが講座を担当して力をつけておられてうれしかったです。これからも積極的に取り組んで場数をふんでください。

## ★ 来年はこんな話をききたい・・・

聴覚学習（音遊びなど）/聴能担当の個人指導/教育実践/自立活動/幼稚部の間に身につけて欲しい力/乳児期のきこえ・その支援（子ども・保護者）と活動内容/発音・発語/文追唱検査の実際/発達障害など重複のお子さんへの手立て/重複児童生徒の自立活動/聴覚以外の障害への対応/取り出し教育・就学の問題/基本的な事を丁寧にゆっくり学ぶ講座/ オーディオロジーの視点からみた聾教育の生き残り方/音声認識や各アプリ等の授業での生かし方/情報保障/初めて聾学校へ入学した生徒への配慮/教科書指導の注意点や実践例/性教育/音楽と聴覚障がい/パネルディスカッション/中瀬先生のお話/中澤先生の話

※数多くのご意見や、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

## 今後の予定

平成 30 年

10月27日（土） 秋の講演会（大阪市：大阪府社会福祉会館）  
「子どもの聴こえの問題に対する心理的な支援」  
芦谷 道子先生（滋賀大学教育学部 教授）

平成 31 年

12月上旬 冬の学習会の案内 機関紙65号 発行

1月25日（金） 第3回代表委員会（京都府立聾学校）

1月26日（土） 冬の学習会（京都市：ルビノ京都堀川）  
「教育オーディオロジー～近畿でのこれまでの学びを振り返る～」  
中瀬 浩一先生（同志社大学 准教授）

「最新の人工内耳医療について」  
山本 典生先生（京都大学医学部大学院医学研究科）

3月下旬 集録第20号発行・機関誌66号 発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 事務局長 内門 祐

〒640-8272

TEL：073-424-3276

和歌山県和歌山市砂山南3丁目1番73号

FAX：073-424-0310

和歌山立和歌山ろう学校内

メール：uchikado-y002@wakayama-c.ed.jp